

平成28年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(水球)  
第84回日本高等学校選手権水泳競技大会(水球)

水球競技戦評

期日：平成28年8月17日(水)～20日(土)  
会場：児島マリンプール

ゲームNo. 19

帽子の色 白

帽子の色 青

埼玉栄高校

17	<table style="border: none; text-align: center;"><tr><td>4</td><td>-</td><td>1</td></tr><tr><td>5</td><td>-</td><td>0</td></tr><tr><td>5</td><td>-</td><td>0</td></tr><tr><td>3</td><td>-</td><td>2</td></tr><tr><td colspan="3">PS</td></tr></table>	4	-	1	5	-	0	5	-	0	3	-	2	PS			3
4	-	1															
5	-	0															
5	-	0															
3	-	2															
PS																	

関西高校

天候： 薄曇り

審判1： 福元 寿夫

審判2： 潮崎 正一

戦 評

組織的ディフェンスからの速攻を軸にした埼玉栄に対して、今大会一戦ごとに力をつけてきた関西との3位決定戦。実力的には埼玉栄が優位に立ってゲームを支配すると思われませんが、関西は数少ないチャンスをものにして、埼玉栄のスピード豊かな攻撃への対処を軸に展開できれば活路が開けるものと思われま

す。第1ピリオド、埼玉栄のセンターボールからの攻撃でセンター③相澤君が先制すると(7:32)、埼玉栄のゾーンDFが機能して相手ボールをインターセプトし(⑥奈良君)、そこからの速攻を⑧長澤君がGKの位置取りを読み切って2点目をゲット。このあたりでゲームの主導権は埼玉栄側に。関西は攻防の切り替わりで埼玉栄に後れを取っている

ので、どうしてもセット中心の攻撃になり、ボールを左サイドの⑤片山君に集めて打開を図りますが、シュートがすべてGK同サイドに偏ってしまい、数少ない機会も得点に結びつきません。第2ピリオドは長いラリーが続きます。お互いにシュートにまで行くのですが、シュートが単調で両チームGKの守備範囲。特に関西は埼玉栄のゾーンディフェンスに対応できず、遠目からのシュートを”打たされている”状態。埼玉栄GK①永井君として容易に処理できるシュートです。そうした展開から埼玉栄⑩樋爪君がタイミングよく飛び出し、左サイドをロングドライブしてクロスに低いシュートを放ってラリーにけりをつけました。

第3ピリオドに入ると、埼玉栄側はマンツーマンのプレスに。そうなると関西はシュートにまでボールをつなげません。退水もセンターに入った⑥入江君が2本取りますが、埼玉DFを崩せずこのピリオドもゼロ封。埼玉栄側は、プレスDFでボールを奪ってからのカウンター攻撃で、ペナルティを含めてこのピリオド5点。第1ピリオド終盤から連続して12点をもぎ取って、完全に突き放しました。

第4ピリオドでは埼玉栄のディフェンスは元に戻しましたが、関係ミスが出てしまい序盤で連続失点。後半には多少軌道修正できましたが、やや集中力に欠けたところがありました。そこを関西高校側が、左サイドからサイドチェンジのパスを投げ、そこをレフティ③徳田君が決めてようやく連続失点を止めました(5:03)。続いて、埼玉栄のカウンターシュートを関西GK①内田君がブロックし、そのままトップ中央から⑧野口君が伸びのあるストレートシュートを決めて関西の連続得点に。しかし反撃もここまでで、関西の攻撃をゾーンで守ってからのカウンター攻撃という埼玉栄の戦法で3得点し、結局、埼玉栄17-3関西という結果となりました。

戦前の予想通り、関西側は埼玉栄の組織的DFを崩せず、完全にペースを握られた展開となりました。関西としては久々の全国大会での上位戦を戦いましたが、準決勝の金沢工業やこの埼玉栄といった全国上位の常連校との力の差はまだかなりあります。2年生以下のメンバーも多数いることから、組織的なDFに磨きをかけて、失点を抑えた試合づくりを目指して欲しいものがあります。

昨年度の優勝、今回は3位とトップレベルの力を示した埼玉栄でしたが、シュート決定率の面では課題が残りました。新チームにも有力な選手が多いことから、攻撃時のミス減らせることが今後の課題でしょう。

試合後半、大差がついたこともあって両チーム選手同士の小競り合いで両者退水という場面が2回もありましたが、このあたりは3位決定戦という位置づけからすると改善が望まれます。

記 録 者

土居 陽治郎

平成28年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(水球)  
第84回日本高等学校選手権水泳競技大会(水球)

水球競技戦評

期日：平成28年8月17日(水)～20日(土)

会場：児島マリンプール

ゲームNo.

20

帽子の色 白

秀明英光高校

10

2	-	4
5	-	3
2	-	2
1	-	2
PS		

天候： 晴れ

帽子の色 青

金沢市立工業高校

11

審判1： 榎橋 邦広

審判2： 若林 和人

戦評

10年以上にわたって高校水球界のトップを走る秀明英光とジュニア世代からの育成が実って常に優勝争いに加わる金沢工業との決勝戦。2年ぶり5回目の優勝を目指す秀明英光と、25年ぶり2回目の優勝を目指す金沢工業との決勝戦での対戦は、ユース世代の「桃太郎カップ」の決勝戦対決はここ数年の恒例となっているものの、インターハイでは初めて。これまでは「事実上の決勝戦」という対戦は幾度とありましたが、本当の決勝戦という意味では非常に興味深い一戦となりました。

第1ピリオド、秀明英光のシュートを金沢工業GK①新藤君が止めて6対5のカウンター攻撃に。そこを⑦鳶が右45°位置から決めて金沢工業が先制。秀明英光も金沢工業のカウンター攻撃からのシュートが外れたことから反撃に出て、⑩コップ君が右サイドから豪快に決めて同点に。しかし、その後は金沢工業ペースに。エース④蔭田君がカウンター攻撃を決め、さらにセンター⑫宮澤君、退水時の⑤川本君という3連続得点で主導権を握ります。秀明英光は右45°から②土橋が決めて金沢工業4-2秀明英光で第1ピリオド終了。このピリオド、金沢工業GK①新藤君は5本のシュートブレイクがあり、特に秀明英光の左サイドからのシュートを徹底的に防ぎました。この左サイドからのシュートブロックがこれからのゲームで重要なカギを握ってきます。

第2ピリオド、秀明英光が積極的に泳ぎ合いのゲームに持ち込み、金沢工業の攻撃、DFともに正確性を欠いたところを、6:47④鈴木君が退水誘発して自身で決め1点差に。中盤では、右サイドをロングドライブした⑨青山君が強引に同サイドシュートを決め、3:40には退水を④鈴木君が決めて同点に。その後、両チームで2点ずつを取り合って、7-7で前半を終了。緊迫したゲームとなりました。

第3ピリオドも秀明英光が優位にゲームを進めます。⑦田中要君が5mシュートを決めてはじめて秀明英光がリード(4:51)。この後、約2分間にわたってのお互いのカウンターの応酬は見応えがあり、特に秀明英光側の独泳ノーマークシュートを3本連続で防いだ金沢工業GK①新藤君のプレーは神がかり的でした。金沢工業側は戻ってディフェンスできるだけ余力がないラリーとなった場面を救いました。そのことで金沢工業が退水を②新田君が(2:11)、⑦鳶君のインターセプトからの3対2カウンターを⑫宮澤君が決めて再びリード。しかし秀明英光も⑦田中要君が左サイドからの同サイドシュートをねじ込んで9-9の同点で勝負の行方は最終ピリオドに。

第4ピリオド、お互いにミスをしないうような慎重なゲーム運び。金沢工業⑤川本君の強烈なシュートを秀明英光②土橋君が”片手キャッチ”したタイミングでカウンター。そこを④鈴木君が決めて秀明英光が1点リード。中盤も速攻でのチャンスが秀明英光に続きます。しかし最後のシュートを金沢工業GK①新藤君らを軸に守りきり、3:30に⑦鳶君がカウンターを決めて10-10の同点に。残り1分を切ったの攻防となったとき、金沢工業が30秒攻撃時間ぎりぎりで⑤川本君が退水を誘発。そこを⑥高橋君が決めて、土壇場で金沢工業1点リード(0:33)。場内のボルテージも最高潮に。最後の秀明英光のシュートもGK①新藤君がブレイクして試合終了。金沢工業が優勝を飾りました。

お互いにボールを奪った時点からの速攻、それにDFがきちんと対応する形で展開した試合は、高校水球としては最高レベルの試合でした。勝利した金沢工業GK①新藤君はシュートを18本もブレイクし、特に秀明英光の左サイドからのシュートをことごとく止めたことで、秀明英光は右サイドやトップ位置からのシュートとシュートコースが限定されたことで決定的な得点を奪えませんでした。両チームの勝利に向けた全力のプレーは長く歴史に刻まれるでしょう。

記録者

土居 陽治郎